

応募様式

地方創生に結びついたレファレンス事例

1. レファレンス事例のテーマ（応募名となります。）

テーマ（15字内） 信州の山の魅力を発信！
副題（字数制限なし） 地域に飛び出す図書館サービスの実践

2. 応募者 ※枠の大きさは適宜調整してください。

応募者属性	いずれかに○をしてください。 ・ 図書館 ・図書館利用者（個人） ・ 図書館利用者 （法人・団体等）
代表者氏名	上條 史生
所属・職名等	塩尻市立図書館 館長
連絡先	担当者 （図書館）大澤青加、吉田正子、中澤友義 （図書館利用者）市民団体「立体地形図の会」 代表 鈴木良明
	〒所在地
	電 話
	F A X
	e-mail

（図書館の蔵書冊数について、平成30年3月末日の概数を記入してください。）

レファレンスサービスを提供または受けた図書館名と蔵書数	図書館名： 塩尻市立図書館 本館	蔵書冊数： 約40万冊
-----------------------------	---------------------	----------------

3. レファレンスサービスを実施した／受けた時期

平成29年7月～現在

4. 公表について

「1. レファレンス事例のテーマ」及び「2. 応募者（連絡先は除く。）」を図書館総合展のホームページ等で公表することに

同意します

同意しません

（いずれかに○をしてください。）

5. 質問の詳細と背景 ※枠の大きさは適宜調整してください。

塩尻市立図書館では2015年8月に3Dプリンターを導入し、貸し出しサービスを開始した。サービス開始以降、ビジネスでの試作品づくりや趣味など様々な目的で利用されるようになった。

導入当初から3Dプリンターを利用する市民団体「立体地形図の会」は、さまざまな手法で立体地形を制作し、地形からわかる地域の魅力を研究・発信している。同団体は、60代から80代の現役をリタイアした世代を中心に構成されている。

図書館は、同団体からの提案で3Dプリンターを使った立体地形（3D模型）や、3D模型に映像を投影するプロジェクションマッピング用のムービー、VR映像などの資料を共同で制作した。館内で企画展を開催したところ反響が大きく、山岳関係団体などからの依頼で出張展示・出張図書館を行うことになった。

展示会場では、「立体地形図の会」メンバーと共に来場者に対してギャラリートークやレファレンスサービスを展開した。3D模型や図書館資料を使い、登山ルートや山小屋に関する情報を提供したほか、山岳関連の読書案内も行い、好評を得た。

6. 図書館からの回答内容 ※枠の大きさは適宜調整してください。

●「上高地インフォメーションセンター」での企画展の開催（2018年7月～8月）

環境省の依頼で、上高地インフォメーションセンターにて2018年7月から2か月間企画展を開催した。同施設での省外の展示実績はなく初の試みとなった。企画展の内容は以下。

1. レファレンスサービス

登山ルート案内や山小屋案内をはじめとするレファレンスサービスを実施した。登山経験が豊富な「立体地形図の会」メンバーも活躍した。

2. 登山・観光パンフレットの紹介

長野県内の全市町村が発行する登山・観光パンフレットを収集・提供した。図書館スタッフが各市町村に問い合わせ、場合によっては現地に足を運び収集した。

3. 出張図書館

登山の知識や山岳小説など、山をテーマに本を集めた出張図書館をオープンした。選書は市内書店と協力して行った。集めた本を冊子にまとめ、展示会場のほか市内書店や図書館でも配布した。

4. バーチャル山頂体験コーナー

VR映像を使い、山頂の360度パノラマ景色を疑似体験できるVRゴーグルを設置した。VR映像は、図書館員と「立体地形図の会」のメンバーが現地で撮影した。

5. 山岳3D模型とプロジェクションマッピング

図書館の3Dプリンターで制作した北アルプス周辺の山の3D模型の展示と、模型に

映像を投影するプロジェクションマッピングを行った。プロジェクションマッピング用のムービーは「立体地形図の会」が制作した。

6. 山クイズコーナー

山にまつわる知識を学べるよう、子どもから大人まで楽しめるクイズコーナーを設置した。クイズは図書館資料を出典に作成した。

メディアにも多く取り上げられ、1日に300人以上が訪れた。



(にぎわう会場の様子)



(山の本を紹介する冊子を作成・配布)



(VRゴーグルを楽しむ来館者)



(県内市町村の山岳パンフレットと山頂パノラマ写真の展示)



(プロジェクションマッピング)



(読書を楽しむ人)

●「山岳フォーラム2017」への出展（2017年11月25日、26日）

山岳フォーラム実行委員会（株）ナガタビからの依頼で、同イベントで企画展を開催した。「山岳フォーラム」は登山ファンや登山関係者が集まる商業イベント。2日間で約3,000名が訪れた。企画展の内容は、上高地インフォメーションセンターで展示したものや、会場でゆっくりくつろぎながら本を読める「ちょっと一息！出張図書館」コーナー、地元の里山など紹介するコーナーも設置した。雑誌「山と溪谷」などのバックナンバー用意したところ好評で、世代の異なる来場者同士の交流も図れた。

山小屋オーナーなどからVR技術の活用相談や、展示の相談があるなど発展もあった。



（3Dプリンターで作成した山岳3D模型）



（雑誌「山と溪谷」を楽しむ様子）



（たくさんの来場者）



（外国人にも大人気のVRゴーグル）

上記2つの展示会のほか、市内の公民館などで多くの展示を開催。

このほか、2018年度内には企画展示を5回予定している。また、企業や団体からVR映像の提供や技術相談、展示会の開催に関する問い合わせを受けている。

現在、展示内容のバージョンアップや、登山用品を製造・販売する地元企業とのタイアップなども模索している。

7. 今回の応募事例が地方創生に結びついた成果・効果

※枠の大きさは適宜調整してください。

・地域経済の活性化

① 地域の魅力を発信する図書館

テーマにふさわしい場所に図書館が出張したことで効率よくターゲットにサービスを提供することができた。その結果、観光客の誘致という点で地域経済活性化につなげる活動をした。実際に、上高地では悪天候のため登山を断念した方が展示を楽しみ、「また来たい」との感想を多く聞いた。

② 新しい技術情報を提供する図書館

今回の展示は山岳関係者らの注目を集め、VR技術の相談や展示開催の依頼などがあつた。相談後、山小屋オーナーからホームページリニューアルの報告があつた。図書館を通してVR技術や3Dプリンター、プロジェクションマッピングなど新しい技術を知り、情報発信の手段として活用をはじめたことで地域経済の活性化にもつながつた。

・市民活動支援

市民団体「立体地形図の会」のメンバーは、現役をリタイアした人が多い。図書館が、専門知識を持つ人を現役世代と捉え協働で事業を遂行したことで、メンバーの退職後の第二のキャリアにつながっている。シニア世代の活躍は地域の活性化に欠かせない。

・図書館資料の充実

非売品の情報は価値が高いと考え、県内全域の観光パンフレットを集めたファイルや映像資料、3D模型などオリジナルの図書館資料を作り出した。図書館資料が図書だけにとどまらず広がることで、利用者に対し提供できる資料の幅が広がった。

8. 今後の課題・展望 ※枠の大きさは適宜調整してください。

・今回応募したレファレンス事例を踏まえ、今後のレファレンスサービスに対する課題や展望を記載してください。

・地域に飛び出すことにより、情報を必要とする人にダイレクトに届けることができる。図書館の有用性をPRする効果もあるので、今後も様々な分野に飛び出していきたい。

・専門知識を持つ人をパートナーに迎えることで、より高度なレファレンスサービスを提供できる。今後も様々な分野の専門機関と連携しレファレンス力の強化に努めていきたい。

(注)

- 1 本様式の作成にあたっては、全体で5ページ以内に収めてください。
- 2 本様式とは別に参考資料を添付していただくことも可能ですが、資料のサイズはA4サイズとしてください。
- 3 書類審査を通過した応募書類については、図書館総合展ホームページ等で公表させていただく場合がありますので、本様式の作成にあたっては個人情報の記載等について御留意ください。